

大したニュースがない日に違いない



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018年2月20日(木) [SAFETY](#)

数日前に英国の大手新聞紙に出た記事の見出しを見たところ、大したニュースがない日だったに違いありません。見出しを書く記者は最も恐ろしい言葉を使用してあなたの注意を引こうとしますが、英国の10代の若者がBPAに曝露しているとの記事が複数ありました。

見出しの「恐怖アピール」は明らかです。それが新聞のスペースを埋め尽くしたにも関わらず、記事が報じたことは正確にはニュースと呼べる代物ではありません。それでは1つの小規模な研究がどのようにメディアの関心を集めているのでしょうか？

この簡単な答えとしてはエクセター大学のある研究者グループが、学術論文に発表されたばかりの[新しい研究](#)の[プレスリリース](#)を発表したことが考えられます。明らかにプレスリリースの価値がある場合は、ニュースとして報告する価値があります。プレスリリースよりも事実を深く掘り下げることなく、ジャーナリストはエクセター大学の研究者の話を書き、見出し記者が新聞を売るために不安にさせるような偏見を付け加えました。

いわゆる「市民科学プロジェクト」は、英国の10代の若者のグループが大学の研究者からの指導を受けて、計画し、実施して、分析したものです。基本的にこのプロジェクトでは94人の10代の若者のBPA曝露を測定し、ある特定の食習慣を変えることによって曝露が減らせるかどうかを判断することを目的とするものでした。

プレスリリースが適切な形の科学論文であるかどうかという疑問を除けば、研究、プレスリリース、メディアストーリーはすべて1つの重要な面で痛ましいほどに欠けています。結果が何を意味するのかを理解する科学的背景が完全に欠落しているのです。

BPA曝露を測定した研究は決して初めてではありません。英国の研究と同じ科学技術を使用して、世界中の研究者が他の多くの集団へのBPA曝露を測定してきました。実際に、学術論文には[85,000人以上の結果を含む140以上の研究](#)が含まれています。

ちょうど昨年出版された論文では、これらの多くの研究結果を同時解析して、地球規模の BPA 曝露を理解し、その結果が何を意味するのかを解釈しました。研究者らは次のように結論付けました。

「この研究における全国のおよび世界的な BPA の推定 1 日摂取量は、数か国で推奨されている TDI [耐容一日摂取量]よりも 2~3 桁低いことが明らかです。」

言い換えれば、BPA の実曝露は、世界中で研究されたあらゆる集団に対する安全摂取限度を数百倍から数千分の 1 も下回っています。

英国の 10 代の若者の BPA 曝露は、世界中の多くの研究で報告されたレベルと比較して平均以下でした。挑発的な見出しとはかなり違って、10 代の若者に BPA の健康影響の危険性は全くありません。危険性がないという結論が重要であればあるほど、その結論のためにおそらくたくさん新聞が売れなかったでしょう。